



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

高等学校公民科における公共の学習に関する一考察

メタデータ	言語: 出版者: 岐阜大学教育学部 公開日: 2023-12-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上野, 友也, 坂本, 一也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/0002000201

高等学校公民科における公共の学習に関する一考察

— A Study of Learning in Civics in High School —

上野友也¹, 坂本一也¹

KAMINO Tomoya¹, SAKAMOTO Kazuya¹

[キーワード Keyword] 高等学校, 公民科, 公共, 現代社会, 指導方法

[所属 Institution] ¹岐阜大学教育学部 (Faculty of Education, Gifu University)

[要 旨 Abstract] 高等学校公民科では、その目標として「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質と能力の向上をあげている。公民科の必修科目である公共においても、その目標は同様であり、これらの資質と技能を涵養するための授業の構築が求められている。このような授業を構築するためには、公共の教科書において記述が増加した教科書本文以外のコラムの活用が不可欠であることを述べる。これは、現代社会の教科書では重視されていなかったものであり、思考力と判断力を涵養する目的のためにコラムの拡充が図られていることがわかる。このような思考力や判断力を評価する方法も必要である。共通テストにおける公共の試作問題は思考力を問う問題が多く出題されているが、詳細に検討すると教科書記述に基づいて多くの問題が作成されており、思考力や判断力を向上させる公共の授業においても、依然として教科書記述の重要性は廃れていない。この教科書記述には、当然のことながらコラムも含まれる。このことから教科書の本文のみならずコラムを活用した授業展開が不可欠であるといえる。

1. 序論

本論文では、公共の授業において生徒の思考力と判断力を向上させるための方策について検討する。教科書の記述を離れて思考力と判断力を高めるための授業実践をする意義はあるにしても、基本的には教科書に記載されている事項を教えることの重要性を説く。これを論じるために、以下の順序で検討を加える。第1は、公共における目標と内容の確認である。第2は、公共の教科書における内容の考察である。ここでは、教科書本文の記述に加えて本文以外の記述(以下、「コラム」と呼ぶ)が思考力や判断力の涵養に必要であることを示す。第3は、公共の試作問題を中心として共通テストの出題傾向を調べる。ここでは、思考力を判断する共通テストの問題の多くが、実際には教科書記述を基礎として構成されていることを明らかにする。共通テストでは、教科書のコラムを元にした問題もいままでもよりも積極的に作成されると考えられる。以上のことから、公共の授業において思考力と判断力を養成するためには、教科書の記述、とくに現代社会ではみられな

かったコラムの記述を活かした授業づくりが必要であることを述べる。

2. 公共における目標と内容

2.1. 目標

公共の目標は、公民科の目標構成と同様に、柱書として示された目標と、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱に沿っている¹。

学習指導要領(平成30年告示)解説・公民編には、公共の目標が以下のように掲げられている。「人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする」²。この目標は、以下のように3つに整理できるであろう。

- 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせること。

¹ 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説」公民編, 2018年, 29頁。

² 同上。

- 現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立つこと。
- グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成すること。

(1) 知識及び技能

「現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」³。

要点は2つである。学習指導要領における知識とは、概念と理論の理解を意味し、技能とは情報の整理を指している。

(2) 思考力、判断力、表現力等

「現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入しながら構想したことを議論する力を養う」⁴。

学習指導要領における思考力とは、事実に基づいて多角的・多面的に考察する能力を意味し、判断力はその考察を公正に判断する能力である。表現力とは、社会における課題を解決するための構想を議論する能力であると考えられる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

「よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める」⁵。

ここで強調されているのが、社会の課題に対する態度と自覚である。社会にある課題を解決する態度と、自分自身が社会に生きる意味を自覚し、課題を解決することにに向けた自覚を磨くことが求められている。

³ 同上，30頁。

⁴ 同上，31頁。

⁵ 同上，33頁。

2.2. 内容

公共の内容は、学習指導要領において以下のように区分されている。それは、「A 公共の扉」、「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の3つである⁶。

(1) A 公共の扉

「A 公共の扉」の内容に関しては、学習指導要領解説に以下のように説明されている。「社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶとともに、古今東西の先人の取組、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論などや、公共的な空間における基本的原理を理解し、大項目B及びCの学習につなげることを主なねらいとしている」⁷。これを簡潔にまとめると、以下の4つの要素からなる。

- 社会に参画する自立した主体とは何かを学ぶこと。
- 古今東西の先人の取組や知恵を踏まえること。
- 社会に参画する際の概念や理論などを理解すること。
- 公共的な空間における基本的原理を理解し、大項目B及びCの学習につなげること。

これらは、公共の教科書において倫理分野、政治思想分野において学ぶ。

(2) B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

「次に示す事柄や課題それぞれについて現実社会の諸課題に関わる主題を設定し、大項目の「A 公共の扉」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用して、他者と協働しながら主題を追究したり解決したりする学習活動を」行う⁸。これを公共の教科書における章立てに

⁶ 同上，28-29頁。

⁷ 同上，35頁。

⁸ 同上，50頁。

あわせて区分すると、以下ようになる⁹。

- 法分野：法や規範の意義及び役割／多様な契約及び消費者の権利と責任／司法参加の意義。
- 政治分野：政治参加と公正な世論の形成，地方自治／国家主権，領土（領海，領空を含む。）／我が国の安全保障と防衛。
- 労働分野：職業選択／雇用と労働問題。なお，教科書によっては，経済分野に含まれる。
- 経済分野：財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化市場経済の機能と限界／金融の働き。
- 国際分野：国際貢献を含む国際社会における我が国の役割／経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）。なお，教科書によっては，政治分野と経済分野に含まれる。

(3) C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち

「共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし，これまでに鍛えてきた社会的な見方・考え方を総合的に働かせ，その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述できるようにする」¹⁰。

これを2つに整理すると，以下ようになる。

- 共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし，これまでに鍛えてきた社会的な見方・考え方を総合的に働かせること。
- その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述すること。

これらは，公共の教科書において探究型学習を通じて学ぶ。

⁹ 同上，28頁。

¹⁰ 同上，74頁。

¹¹ 東書，教図，実教，清水，帝国，数研，第一，東法は教科書会社の名前の略称である。それぞれ，東京書籍，教育図書，実教出版，清水書院，帝国書院，数研出版，第一学習社，東京教令出版を指す。文部科学省「高等学校用教科書目録（令和6年度使用）」，2023年，11頁。

¹² 岐阜県教育委員会「令和5年度使用教科書の採択に

3. 公共の教科書における内容

これまで学習指導要領とその解説に記述されていた公共の内容について簡単に紹介してきたが，ここからは学習指導要領に即して作成された教科書の内容についてみていくことにしたい。

(1) 教科書の種類

令和6年度使用の公共の教科書は，8社が12の教科書を刊行している（表1参照）¹¹。

表1 公共の教科書出版社と書名

発行者	教科書番号	書名
東書	701	公共
教図	702	公共
実教	703	詳述公共
実教	704	公共
清水	705	高等学校 公共
清水	706	私たちの公共
帝国	707	高等学校 公共
数研	713	新版 公共
数研	709	高等学校 公共
第一	710	高等学校 公共
第一	711	高等学校 新公共
東法	712	公共

(2) 教科書の構成

この中で岐阜県での採用が多い実教704（18校），東書701（13校），帝国707（10校），数研709（10校）について，その内容と構成を検討していく¹²。

実教704¹³

本文	第1部	公共の扉	倫理分野 政治思想分野
----	-----	------	----------------

ついて」

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/345267.pdf>（2023年8月31日アクセス）。なお，それ以外の教科書は，教図702-1校，実教703-3校，清水705-1校，第一710-4校，第一711-8校，数研713-5校であった。なお，定時制，通信制はそれぞれ別に数えた。

¹³ 桐山孝信ほか著『公共704』，実教出版，2023年。以下，脚注では「実教『公共704』」と略す。

	第2部	よりよい社会の形成に参加する私たち	政治分野 経済分野 国際分野
	第3部	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	探究型学習
コラム	Trial, Active, Check, 現代社会ナビ, Challenge, なるほどQ&A, 時事NOTE, 判例, Try		

東書701¹⁴

本文	第1部	「公共」のとびら	倫理分野 政治思想分野
	第2部	自立した主体として社会に参画する私たち	政治分野 法分野 経済分野 労働分野 国際分野
	第3部	持続可能な社会づくりに参画するために	探究型学習
コラム	ゼミナール, アプローチ, フォーカス&アクション, 活用, コラム, アクティブ公民, 判例, トライ		

帝国707¹⁵

本文	第1部	私たちがつくる社会	倫理分野 政治思想分野
	第2部	社会のしくみと諸課題	法分野 政治分野 経済分野
	第3部	持続可能な社会の実現に向けて	探究型学習
コラム	現代社会の諸課題, HOW to, 現代社会の見方・考え方, 戦後史を振り返る, なるほど経済教室, 思考実験をやってみよう, 確認, 活用, QR判例, 中学校との関連		

数研709¹⁶

本文	巻頭特集	公共的な空間をつくる私たち	
----	------	---------------	--

	第1章	公共的な空間における人間としてのあり方生き方	倫理分野
	第2章	公共的な空間における基本原理	政治思想分野
	第3章	ルールをつくり守る私たち	法分野
	第4章	政治に参加する私たち	政治分野
	第5章	経済活動を行う私たち	経済分野
	課題探究編	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	探究型学習
コラム	Check, クローズアップ, 図表で見る, Thinking Time, Note/判例		

公共の内容は学習指導要領に即して3つに区分されており、各社の教科書は共通の構造となっている。政治、法、労働、経済、国際分野をどのように区分するのは、各社によって判断が分かっているが、基本的に各社の教科書記述に大きな差異はみられなかった。ただし、これらの教科書に特徴的なことは、本文よりも本文以外の部分（以下、「コラム」という）がかなり充実していることにある。公共と現代社会との比較は後述するが、このコラムの部分はかなり拡充されており、この部分において思考力、判断力、表現力等を養成しようという意図がみえる。以下、コラムについて分類して整理してみたい。

(3) コラムの内容

各社の教科書のコラムを5つに分類して説明する。最初の2つが知識の習得に関するコラムであり、次の2つが思考力、判断力の修養に向けたコラムである。最後は、それらに加えて、表現力の向上に向けたコラムといえる。

A. 教科書本文の記述の確認
教科書本文で学んだ内容について、その定着を確認するために疑問文を用いて生徒に問いかける。文字数は少ない。

¹⁴ 間宮陽介ほか著『公共701』, 東京書籍, 2023年。以下, 脚注では「東書『公共701』」と略す。

¹⁵ 荏部直ほか著『高等学校 公共707』, 帝国書院,

2023年。以下, 脚注では「帝国『公共707』」と略す。

¹⁶ 矢野智司ほか著『高等学校 公共709』, 数研出版, 2023年。

また、解答は教科書本文のなかにあるので、授業中に生徒に質問するのも有効である。

実教704：Try/Check

東書701：トライ

帝国707：確認/活用

数研709：Check

実教704の教科書では、見開き2ページに1つの割合でTryが用意されており、教科書記述の確認のための問いかけ文が設けられている。たとえば「なぜ普通選挙と平等選挙の原則は大切なのか、民主主義と公正の観点から説明してみよう」といった問いを通じて、生徒に教科書知識を確認するように促している¹⁷。

Checkは、Tryとは異なり、見開き2ページの教科書のまとめという位置づけではなく、教科書記述に関連して重要だと思われる問いかけ文が用意されている。たとえば「議院内閣制と大統領制の長所と短所を、政治の安定性やリーダーシップ、権力分立の観点から比較してみよう」という問いがある¹⁸。

B. 教科書本文の記述の補完

教科書本文では紙幅が十分ではなく知識や情報を提供できないので、コラムという形式で、その知識や情報を補完的に提供するものである。

実教704：現代社会ナビ/時事NOTE/判例

東書701：ゼミナール/アプローチ/コラム/アクティブ公民、判例

帝国707：HOW to/戦後史を振り返る/なるほど経済教室/QR判例

数研709：クローズアップ/図表で見る/Note/判例

教科書本文の記述では十分ではない場合、より深い知識を提供するためのコラムが用意されている。たとえば、実教704の公民教科書における時事NOTEでは、「沖縄の基地問題¹⁹」、「急増する難民²⁰」、「国際経済のなかの中国²¹」といった今日でも新聞やニュースで話題となっている時事問題が最大で見開き2ページに

わたって説明されている。

C. 対話を通じた思考力、判断力の向上

教科書本文の内容を、二人以上の人物の会話を通じてより深く理解する形式である。会話の片方あるいは双方が問いかけすることで、教科書本文だけでは疑問にもたないような事項に対して疑問を持ち、解答を導ける思考力と判断力を磨くことができる。

実教704：Trial/Active/なるほどQ&A

教科書本文の内容を会話形式で振り返ることで、より教科書の内容を深く理解できるようになっている。たとえば、実教704の公民教科書におけるActiveでは、「男女共同参画社会を実現するには²²」、「大きな政府と小さな政府のどちらが望ましいのか²³」、「財政再建をどのように進めるべきか²⁴」といったテーマについて最大見開き2ページ程度で紹介されている。

D. 複数の意見を踏まえた思考力、判断力の向上

教科書本文に関連するテーマについて、複数の立場から、その主張と根拠が示されており、教科書記述だけでは疑問にもたないような事項に対して疑問を持ち、解答を導ける思考力と判断力を磨くことができる。

東書701：活用

帝国707：現代社会の諸課題/現代社会の見方・考え方/思考実験をやってみよう

数研709：Thinking Time

教科書の内容を会話形式ではなく、生徒に必要な情報を提供したうえで、いくつかの対立した立場を紹介し、そのなかから自分の意見を具体的な根拠に基づいて主張することが求められている。たとえば、帝国707の公民教科書における現代社会の諸課題では、「内戦状態の国に国際社会は介入すべきか²⁵」、「図書館の運営を民間に任せるべきか²⁶」、「国内工場の海外移転にどう対応するか²⁷」といった国内外で論争と

¹⁷ 実教『公共704』，93頁。

¹⁸ 同上，49頁。

¹⁹ 同上，74-75頁。

²⁰ 同上，175頁。

²¹ 同上，193頁。

²² 同上，38-39頁。

²³ 同上，105頁。

²⁴ 同上，130-131頁。

²⁵ 帝国『公共707』，132-133頁。

²⁶ 同上，164頁。

²⁷ 同上，200-201頁。

なっているテーマが用意されている。また、思考実験をやってみようでは、「正義」の葛藤と生命倫理²⁸、「多数決の課題と民主主義²⁹」、「四人のジレンマ」と協働³⁰といったテーマが扱われている。このようなコラムは、知識だけでなく、思考力、判断力の向上を目指すことに、その目的がある。

E. 具体的な実践を通じた思考力、判断力、表現力等の向上
教科書本文で学んだことを、学内外で行う具体的な実践を通じて定着させることを目的とする。
実教704：Challenge 東書701：フォーカス&アクション 数研709：Thinking Time

教科書の内容を具体的な実践を通じて理解する方法について学ぶコラムである。具体的には、東書701の公共の教科書では、フォーカス&アクションというコラムがある。そこでは、「模擬請願をやってみよう³¹」、「模擬選挙をやってみよう³²」、「模擬立法をやってみよう³³」、「刑事模擬裁判をやってみよう³⁴」といった具体的な実践の方法が示されている。これらの具体的な実践は、知識の定着につながり、思考力、判断力の向上を促すだけでなく、表現力の習得にも大きな力を発揮するであろう。

これまで教科書本文ではない記述であるコラムを中心に論じてきたが、いずれの場合も、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の涵養を目指すために用意されており、本文を補完するものであった。後述するように、現代社会と比較すると、思考力、判断力、表現力等の向上に関するコラムが飛躍的に増加しており、公共の教科書においてはそれがとくに強調されている。

4. 現代社会との比較

²⁸ 同上、40頁。

²⁹ 同上、66頁。

³⁰ 同上、67頁。

³¹ 東書『公共701』、64-65頁。

³² 同上、80-83頁。

³³ 同上、90-91頁。

³⁴ 同上、108-111頁。

³⁵ 國原幸一朗「高等学校公民科『公共』の授業内容と方法に関する課題——「現代社会」と比較して」

公共と現代社会の目標、内容、教科書の内容を確認することによって、公共の特徴を浮かび上がらせることができるであろう。すでに、國原幸一朗が、公共と現代社会における目標、内容、指導方法と身につける資質・能力の相違点について学習指導要領の記述から詳細に考察し、公共と現代社会の教科書の相違点についても論じているが³⁵、本稿で強調したい点は前述したように、公共の教科書におけるコラムの拡充である。

(1) 目標

現代社会の目標は、現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を養うとともにそれと関連させながら人間としての在り方生き方を考える力を養うとある³⁶。一方、前述したように公共の目標は、公民科における資質と能力の育成を反映し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の向上にある。目標に関してはいえば、より具体的な目標が掲げられるだけでなく、思考力、判断力、表現力等の強化が前面に出ているといえよう。

(2) 内容

現代社会の内容は、「(1) 私たちの生きる社会」、「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方」、「(3) 共に生きる社会を目指して」の3つの大項目から構成されている³⁷。一方、公共では、「A 公共の扉」、「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の3つの大項目からなっている。現代社会と公共の内容は一部の例外を除いて重なり合うが³⁸、その内容を教育する上でのアプローチがかなり異なっている。

(3) 教科書の内容

とくに重要なことは、教科書本文の記述量はそれほど変更せずに、コラムの分量を増大させたことにある。ここでは代表的な教科書の一つとして、東書「現代社

『名古屋学院大学論集 人文・自然科学編』第59巻第2号、2023年、30-49頁。

³⁶ 文部科学省「高等学校学習指導要領公民編」、2009年、8頁。

³⁷ 同上。

³⁸ たとえば、公共では、現代社会の教育内容に加えて、功利主義、義務論、徳倫理学、正義論といった規範倫理学の概念や理論、契約法を中心とする民法が新たに問われている。

会(313)」と、東書「公共(701)」の二つの教科書を比較することにした。

東書313(現代社会)³⁹

本文	第1部	わたしの生きる社会	テーマ別学習
	第2部	現代の社会と人間	哲学分野 政治分野 法分野 経済分野 国際分野
	第3部	ともに生きる社会をめざして	テーマ別学習
コラム	ゼミナール(9項目)、アプローチ(8項目)、コラム(29項目)、判例		

東書701(公共)⁴⁰

本文	第1部	「公共」のとびら	倫理分野 政治思想分野
	第2部	自立した主体として社会に参画する私たち	政治分野 法分野 経済分野 労働分野 国際分野
	第3部	持続可能な社会づくりに参画するために	探究型学習
コラム	ゼミナール(12項目)、アプローチ(11項目)、フォーカス&アクション(4項目)、活用(2項目)、コラム(51項目)、アクティブ公民(13項目)、判例、トライ		

現代社会と公共は一部を除いて教育内容はほぼ同じ

³⁹ 間宮陽介ほか著『現代社会313』, 東京書籍, 2023年。

⁴⁰ 間宮陽介ほか著『公共701』, 東京書籍, 2023年。

⁴¹ 態度や自覚を客観的な基準で評価するのは困難であろう。ただし, このような自覚や態度は, 知識及び技能, 思考力・判断力・表現力等の定着と関連すると考えられるので, 知識などの評価を通じて態度や自覚を間接的に評価することは可能であるかもしれない。

⁴² 制限時間は60分となっているので, 一般的な受験生がすべて解答できる分量でなければならない。また,

であるが, 教科書の構成は異なっている。とくに重要なことは, 現代社会の教科書において, それほどコラムは重視されていなかったが, 公共の教科書では, 2つの意味でコラムが充実した。一つは, コラム数がかなり増加したという点にある。たとえば, 現代社会のゼミナールは9項目から公共では12項目へ, アプローチは8項目から11項目へと増加した。もう一つは, 現代社会の教科書に登場していなかったコラムが, 公共の教科書では新設された点にある。公共の教科書では, 現代社会の教科書に見られなかったフォーカス&アクション, 活用, アクティブ公民, トライといった項目が追加されている。このことは, これらのコラムを通じて知識のみならず, 思考力, 判断力, 表現力等の向上を目指すことが教科書においても目指されていることを意味する。

5. 共通テストにおける思考力と判断力の評価

公共の授業で学んだ知識及び技能, 思考力, 判断力, 表現力等は, 公共の目標をどれだけ達成できたのかを判断するために評価の対象となる⁴¹。大学入試センター共通テストは, 知識偏重であった大学入試センター試験に代わって導入され, 新課程の学習指導要領の内容を踏まえて, 思考力を問う問題へと変化してきた。ここでは, 公共の目標である知識及び技能, 思考力, 判断力, 表現力等の養成とその評価方法について, 「公共, 政治・経済」の試作問題を中心に, これまでの「政治・経済」の共通テストの傾向から検討する。なお, 公共のサンプル問題は, 時間の制約, 紙幅の制約, 問題数の制約などを考慮していないので, ここでは検討の対象から外す⁴²。

5.1. 共通テストに出題される問題/されない問題

ここでは, 本格的に公共の目標と共通テストによる評価との関連性について論じる前に, 共通テストにお

試験のページ数は, 従来の共通テストにおいては40ページ以内となっていた。さらに, 問題数は, 従来から30題以上となっている。大学入試センター「平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した 令和7年度大学入学共通テストからの出題教科・科目 公共 サンプル問題」

https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=510&f=abm00000308.pdf&n=サンプル問題『公共』_問題.pdf (2023年8月31日アクセス)。

いて出題される問題とされない問題について簡単に確認しておきたい。

出題範囲は、学習指導要領の記載がある分野である⁴³。当然のことながら、記載のない学習分野については出題されない。教科書は学習指導要領に準拠しているため⁴⁴、教科書記述がある問題は出題の対象となる。ただし、複数の教科書が存在するために、すべての教科書で採用されていなくても出題されることは多い。

5.2. 共通テストで出題される問題のパターン

ここからは、共通テストで出題される問題のパターンを4つ示す。

(1) センター試験型

センター試験型問題とは、旧来のセンター試験において頻出していた問題を指すものとする。センター試験型の問題は、公共の目標である知識の習得と関連がある。

センター試験型問題には、4択問題とそれ以上の選択肢のある問題がある。4択問題の場合、「正しいものを選べ」、「最も適当なものを選べ」、「誤っているものを選べ」といった問いかけ文にしたがって、4択の記述にある正誤を判断して正答肢を選択する。一方、4択以上の問題としては、「正しいものの組合せを選べ」、「誤っているものの組合せを選べ」といった問いかけ文に応じて正答肢を選ぶ。いずれの場合においても重要なことは、教科書の知識に基づいて概念、事実、理論の正否を判断する能力である。これは、公共の目標である知識の養成に当てはまる。

(2) 共通テスト型問題

公共の試作問題や過去の共通テストでは、このようなセンター試験型の問題が一部残される一方で、思考力・判断力を問う問題が増えてきた。共通テスト型問

題は、公共の思考力、判断力の養成に関連がある。

共通テスト型問題には、文章の読解とデータの分析の2つのパターンがある。文章の読解では、思想家の古典から引用した文章⁴⁵、最高裁判所の判例⁴⁶、法律⁴⁷、専門書の一節⁴⁸、生徒間の会話などが用いられる。一方、データの分析においては、グラフや表などが用いられることが多くなってきた。これらの共通テスト型問題が、センター試験型の問題と異なる点は、教科書知識だけでは解答できないという点にある。共通テスト型問題では、教科書記述にはない文章や図表が登場する。しかし、これらの文章や図表を解説するためには、教科書知識が不要であるかといえば、そうではない。たとえば、現代日本政治史については教科書の記載があるが、最近の政党の議席数の変化に関するグラフは教科書には一般に記載されていない。しかし、グラフを分析する際に、教科書の知識に基づいて正誤の判定ができるような試験問題が出題されている⁴⁹。また、衆議院議員総選挙における最大格差に関する図を用いて、4つの選択肢から正答肢を導き出す問題においても、教科書記述を押さえておかなければ解答できない⁵⁰。ほかにも、国連安全保障理事会での拒否権活動の回数と、冷戦史との関連に関する選択肢に関しても同様である⁵¹。

教科書で学習した知識を根拠にして、文章を読解し、データを分析し、正答肢を導くことが求められるからである。すなわち、共通テスト型問題は、教科書知識が必須であるだけでなく、未知の文章や図表をその知識に基づいて思考し、判断する能力も問われている。

(3) 探究型問題

共通テストでは、公共などの公民科において探究学習が重視されていることを受けて、探究型問題も作成されてきた。これは、思考力と判断力を問う共通テスト型問題の発展型として理解できるであろう。

⁴³ 大学入試センター「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の出題方法等の予告」

<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=510&f=abm00003201.pdf> (2023年8月31日アクセス)。

⁴⁴ 教科書の発行に関する臨時措置法第2条第1項に基づいて、教育課程に応じて教科書が編成される。

⁴⁵ 大学入試センター「令和4年度大学院入試共通テスト 政治・経済 本試験」第1問問1。

⁴⁶ 同上、第2問問1。

⁴⁷ 大学入試センター「令和7年度大学入学共通テスト 試作問題『公共、政治・経済』」第3問問4。

⁴⁸ 大学入試センター「令和3年度大学院入試共通テスト 政治・経済 本試験」第2問問3。

⁴⁹ 大学入試センター「令和3年度大学院入試共通テスト 政治・経済 追・再試験」第1問問2。

⁵⁰ 大学入試センター「令和7年度大学入学共通テスト 試作問題『公共、政治・経済』」第3問問3。

⁵¹ 同上、第3問問4。

探究学習には、情報の収集と選定、資料の分析、情報の整理、プレゼンテーション、ディベート、論文の作成といったプロセスを経て、知識及び技能、思考力と判断力を用いた学習を発展させて表現力を習得させる目的がある。ディベート（会話文）において立場の相違を明確に理解しなければ、解答できない問題も共通テストにはある。たとえば、高齢者の生活のための行政の施策について、公正の立場と効率の立場の生徒が登場し、その生徒の発言を選択肢から選ばせる問題が出題されている⁵²。また、ディベートとは異なるが、移民・難民の受け入れに関する3つの提言のなかから自由に1つ選択し（これは採点されない）、その提言を踏まえて、それと一致する意見を3つの選択肢から2つ選ぶ問題が出題されている⁵³。ただし、これらの場合であっても、教科書で学んだ知識がなければ解答できない問題となっている。

(4) データ分析／読解型問題

データ分析／読解型問題は、教科書記述がないデータや文章を理解するために教科書の記載のある知識を必要としない問題である。たとえば、公共の試作問題で出題された合計特殊出生率と現金給付、現物給付対GDP比の比較についての図に関する問いは、かならずしも教科書の知識を用いなくても解答できる⁵⁴。ただし、このようなタイプの問題は数としてかなり限られている。

5.3. 教科書（コラム）の重要性

共通テストの問題を総括すると、一部の問題を除いて多くの問題は、教科書記述のある事実、概念、理論を用いなければ解答できない構造になっている。思考力を問う共通テストであっても、基本は教科書の記述にある。

現代社会と公共を比較すると、思考力、判断力、表現力等を養成するコラムが格段に増えていることから、公共の授業においては、教科書の本文だけでなくコラムを活用することが不可欠である。このようなコラムは、共通テストが重視する思考力や判断力の養成にもつながる。また、コラムは教科書記述にあたるので共通テストの出題範囲であり、その点から考えてもコラムの重要性は無視し得ない。

6. 結論

高等学校公民科では、その目標として、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせること、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立つこと、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成すること、の3つを掲げていた。その目標を達成するために、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質と能力の向上をあげている。公民科の必修科目である公共においても、その目標は同様であり、これらの資質と技能を涵養するための授業の構築が求められている。

このような授業を構築するためには、公共の教科書において記述が増加したコラムの活用が不可欠である。これは、現代社会の教科書ではあまり重視されていないものであり、思考力と判断力を涵養する目的のためにコラムの充実が図られていることがわかる。とくに、対話を通じた思考力、判断力の向上を図るコラム、複数の意見を踏まえた思考力、判断力の向上を達成するコラム、具体的な実践を通じた思考力、判断力、表現力等の向上を目指すコラムが、これまで以上に重視されている。

このような能力を評価するための方法も必要である。共通テストにおける公共の試作問題は思考力を問う問題が多く出題されているが、詳細に検討すると教科書記述に基づいて多くの問題が作成されている。センター試験型問題のほか、共通テスト型問題や探究型問題においても知識を基礎として問題が構成されている。

このことから、公共の授業においても依然として教科書記述の重要性は廃れていないといえよう。教科書本文のみならずコラムを活用した授業展開が不可欠であるといえる。

⁵² 同上、第2問問4。

⁵³ 同上、第6問問6。

⁵⁴ 同上、第2問問2。

